

Tokyo N VA The Detonation Scenario Book

遺された者

怒りのやり場とは

はじめにお読みください

本書について

本書には、(有)F・E・A・R社より発売されているTRPGシステム「トーキョーN VA The Detonation」のシナリオが掲載されている。

もし、本書に掲載されているシナリオをPLとしてプレイするならば、これより先を読んでではない。

掲載されているシナリオ

本書に掲載されているシナリオは、製作者が最もよく起こるであろうと考えた筋書きを元に記述されている。プレイ中にシナリオが想定外の方角に進んでしまったとしても、RLは必ずしもシナリオの筋書き通りに進めなければならないわけではない。RLは自分の能力に合った方法で物語を完成させるようにすること。

本書の使い方

プレイ前

本書に掲載されているシナリオをプレイする際、RLは事前にシナリオをよく読み理解しておくこと。

その上で、RLはシナリオの内容やゲストデータ等本書に掲載されている内容全てについて自由に変更してよい。なお、RL自ら手を加える予定がなくとも、プレイ中にシナリオの記述とは異なる状況になる場合があるので、その対処をスムーズに行うためにもシナリオをよく読んでおくことを推奨する。

プレアクト

掲載されているシナリオの最初のページには、プレアクト時にPL達に公開するべき情報を全て掲載している。RLはアクトトレーラー及びハンドアウトを読み上げた後、このページをPL達に開示し説明すること。

アクト中

本書に掲載されているシナリオを元にアクトを進行すること。状況に応じて、適宜シナリオの内容を変更してよい。重要なのはシナリオ通りに話を進めるのではなく、RLとPL全員が楽しみ、その上であなた達だけの物語を完成させることだ。それができたならそのアクトは成功したと言えるだろう。

なお、クライマックスに登場する予定のゲストデータ、及びゲストの神業は、管理しやすいように一箇所にまとめてある。これらの一覧は、シナリオ想定外の事象が起こった際に役に立つだろう。活用して欲しい。

著作権

本書に掲載されている記述の全てまたは一部を、製作者に無断で複写、改変、二次配布することを禁止する。

それでは、よいアクトを

かくて、運命の扉は開かれる

製作

原作

Nene-Key

執筆

Nene-Key

デザイン

Nene-Key

(<http://neneki.jugem.jp/>)

「トーキョーN VA The Detonation」
は有限会社ファースト・アミューズメント・リサーチの著作物です

目次

プレアクト	2
オープニングフェイズ	3
リサーチフェイズ	6
クライマックスフェイズ.....	10
ゲストデータ	11
エンディングフェイズ	12

遺された者

lost family

「私は犯罪者の娘だから、お父さんの元にはいけないの」

原作：Nene-Key
執筆：Nene-Key

プレアクト

プレイ前に

このシナリオは「トーキョーN VA The Detonation」用のシナリオである。このページのみPLも読んでかまわない。これ以降のページはRLのみ読んでよい。

アクトトレーラー

キャスト作成前に、以下を読み上げよ。

災厄の街、トーキョーN VA
犯罪は絶えず起こり
2秒も経てば誰かが死ぬ

罪を犯した者には制裁を
法という名の元に制裁を
正義という力の元に制裁を

しかし、それを執行するのは
自分ではない代行者

制裁の後に残された者達
彼らは、代行者に感謝するだろうか
それとも.....憎むだろうか
裁くのは、自分だったと
怒りを、憎しみを、ぶつける相手を奪ったと

トーキョーN VA The Detonation
「遺された者」

遺された者達の運命の扉を、垣間見るといい

推奨スタイルと設定

本アクトにおける推奨スタイルと、キャストにつく設定は以下の通りである。

イヌ

昔、ある事件で制裁した凶悪犯罪者の娘を引き取り、家族として育てているため、ある程度警察に勤務している方が望ましい。

カブキ

学生である。千春という親友がいる。

トーキー

社会的な事件を扱う報道記者が望ましい。

エグゼク

千早重工の重役である。犬飼というエグゼクと同期であるため、ある程度千早重工に勤務している方が望ましい。

シナリオハンドアウト

以下のハンドアウトを参考にしてキャストを作成せよ。また、キャスト同士のコネは以下の順番で取得する。

「イヌ」「エグゼク」「トーキー」「カブキ」「イヌ」

シナリオスペック

- ・最大達成値 21
- ・イベント 多い
- ・情報項目 15～20個
- ・ゲスト 強め

参加人数

このアクトは4人用である。

必要防御神業

キャストが神業だけで死なないために必要な防御神業は2つである。なお、この必要数に『カブキ』の《チャイ》は含まれない。

必要情報系神業

このアクトでは、『エグゼク』の《買収》も含め、情報を取得するために使用する神業が2つ必要である。

『イヌ』の設定

千春と出会い現在に至るまで、5～6年ほど経過していることを想定している。

『カブキ』の設定

千春の過去については基本的に知らないものとする。知っているでも、千春にそのことは知られないようにすること。

『トーキー』の設定

過去に何度も事件を報道しているようなトーキーが望ましい。

『エグゼク』の設定

年齢によって、犬飼を先輩や後輩としてもよい。

イヌ

コネ：千春 スート：ハート（家族）

キミは、以前制裁した凶悪犯罪者の娘、兵藤千春を引き取り育てている。たとえどれほど残忍な犯罪者であっても、その娘に罪は無い。それが、目の前で今にも消えそうに震えていた少女ならなおさらだ。同僚から、上司からももちろん反対はあった。だが、キミはあの時決めた。彼女を守り抜いてみせる、と。時は過ぎ、初めは心を閉ざしていた千春も今では笑顔を見せるようになった。これも、同じ境遇からか世話を焼いてくれたレイと、千春の親友の『カブキ』、そしてキミのおかげだ。

トーキー

コネ：千早夏芽 スート：スペード（信頼）

犯罪都市と言っても過言ではない街、トーキョーN VA。キミも、今までに凶悪犯罪だけで数え切れないくらいの取材をしている。そんなキミに、得意先のCNNの社長、千早夏芽からコールが入った。遺族の会という所の協賛で、凶悪事件の被害者及び家族にスポットを当てた取材をして欲しいらしい。派手な、事件の外面ばかりを報道しては、偏った真実しか伝わらないからだそう。

カブキ

コネ：千春 スート：クラブ（親友）

千春。キミと同じ新皇帝都大学付属高校に通う少女。彼女は優しく、少々気が弱かったが、いつも笑顔だった。キミ達よく学校の帰りに寄り道をし、たわいもない会話に花を咲かせては笑いあう、そんな仲だった。しかし、ある事件をきっかけに、彼女の顔からは笑顔が消え、気がなくなり、学校に来なくなってしまった。キミは、そんな彼女を見ているのが、辛かった。.....だから、キミは彼女を助けたかった。

エグゼク

コネ：犬飼圭一 スート：クラブ（友人）

部下からある噂を聞いた。同期の犬飼圭一に横領の疑惑がある、というものだ。犬飼はキミにとっていい友人であり、ライバルだった。しかし、数年前のある時を境に、彼は仕事に没頭するようになり、キミとの交流も無くなっていった。話では着実に成果を上げ、キミと同じくエグゼクになっているらしい。エグゼクに黒い噂はつきものだが、あまり流れてもいいものではない。キミは、噂を確かめるべく調査を開始した。

オープニングフェイズ

兵頭千春

現在は、『イヌ』の苗字) 千春』として市民登録されている。

千春を引き取らない

R Lは、P Lにハンドアウトを確認するように伝えること。

ストーリー

『イヌ』の娘、千春。彼女は凶悪なサイバーサイコであった兵頭謙二の娘であり、『イヌ』に射殺された犯罪者だった。

兵頭謙二は、犬飼という千早のエグゼク、島田純一の娘を殺害し、その様子をウェブにばら撒いた。犬飼は復讐のために現在の地位を築き、社の資金を裏で着服し、咲夜寛美とともに、「遺族の会」を設立。自分の娘を殺した兵頭が制裁でこの世にいないため、娘である千春を復讐の対象とした。

年端もいかぬ千春を守り、育てた『イヌ』。しかし、彼女は本当の父親が起こした犯罪の復讐の標的にされていることを悟り、『イヌ』の元を去る。

千春の親友である『カブキ』は、家出した彼女を匿い、事件の真相を突き止めようとする。

『トーキー』は、「遺族の会」の協賛で犯罪被害者の被害者とその遺族について取材を進めるうち、千春の父親の所業について報道してしまう。

『エグゼク』は、同期で仲のよかった犬飼の黒い噂を聞きつけ、彼を調査する。

オープニング

イヌ：蘇る惨劇

登場：他のキャストの登場は不可

解説 1

『イヌ』のオープニングシーン。『イヌ』は以前、兵藤謙二を制裁した時の夢を見る。

描写 1

それは、惨劇だった。キミが事件現場に到着したとき、そこは正に地獄だったのだ。

引き千切れ、散乱した布。ボロ雑巾のように切断され、赤黒い液体をこびりつかせた肉。そして、悪鬼のような表情で恍惚としている男、兵藤謙二。サイバーサイコの慣れの果てであった。

セリフ

兵頭謙二

「はハハははは.....殺した殺した！殺してやった！この身体この力最高だぜえええ！！」

「(『イヌ』を見る)追加の肉が来たぜええ、たあぶり切り刻ませてもらうからなあくはははははははは！！」

結末 1

兵藤は『イヌ』と警官隊にその場で鉛弾を浴び即死。描写 2 へ。

解説 2

『イヌ』と兵藤千春の出会いのシーン。『イヌ』の回想で説明される。

描写 2

気が付くとそこはキミの家、真夜中だ。さっきのは夢。何度も見る夢。そう、もう昔のことだ。あの事件の後、兵藤の自宅に乗り込むと、そこには、シーツに包まったまだ幼い少女がいた。しばらく何も食べていないのであろう、痩せ細った少女が、声を枯らして、泣いていた。

セリフ

兵頭千春

「(部屋の隅で震えている).....つく、すん.....」
「(『イヌ』が話しかけた).....パパが、パパが帰ってこないの」

結末 2

『イヌ』が少女を引き取ることを決意したらシーンは終了。

トーキー：偶然の惨劇

登場：<社会：メディア>15

解説

『トーキー』のオープニングシーン。過去に偶然カメラに収めた凶悪事件について回想する。

描写

キミは、偶然殺人現場に居合わせたことがあった。なにか、そう、勘のようなものが。キミにレッドエリアの倉庫街へと足を運ばせ、キミはそこで小さな子供がレッガーに殺される場面カメラに収めてしまったのだ。

数人のレッガーと、手足を縛られ、猿ぐつわをかまされ、怯えた表情の子供が一人。レッガー達はポケットロンで何か話したあと、おもむろに懐から銃を取り出し、子供に向けて放った！

セリフ

レッガー

「約束のカネは、確かに振り込まれてるな」
「あー、わかったわかった。アンタの愛しい息子の声を聞かせてやるから、ちょっと待ってな」
「(猿ぐつわを外し、子供が何か言おうとしたところで子供を射殺する)よかったなあ？最後の声が聞けてよ」

「前からアンタ、気に入らなかったんだよ。TF (トゥルー・フリーダム) だかなんだかしらねえが、俺たちのシノギの邪魔はっかしやがってよ」

結末

この後、『トーキー』の報道により犯人は特定され、ブラックハウンドにより犯人は射殺される。シーンを終了する。

カブキ：親友

登場：＜社会：学校＞10

解説 1

『カブキ』のオープニングシーン。『カブキ』と千春が出会う。

描写 1

キミには親しい友人がいる。彼女の名前は千春。ちょっと気が弱い所もあるが、優しい娘だ。初めて会った時、たしか、きっかけは隣の席になったからだった、彼女はおとなしくて、というより何かに怯えているようで、キミが話しかけてもよそよそしい反応しかなかった。

セリフ

千春

「(話しかけられた)……(『イヌ』の苗字) 千春です」

「ええと、その……よろしく」

「私、人と話すのが苦手で……ごめんなさい」

結末 1

『カブキ』と千春のぎこちない会話を描写したら、描写 2 へ。

登場：＜社会：学校＞10

解説 2

『カブキ』と千春が、現在は親友であることを描写する。

描写 2

そのうち、彼女も慣れてきて、キミには笑顔を見せるようになった。まだ、クラスメートに対してはぎこちないけれど、前より笑顔が多くなった。

セリフ

千春

「『カブキ』、この前のテスト、どうだった？」

「私は……ちょっとダメだったかな。もうちょっとがんばらないとね」

「テストも終わったし、どこかに遊びに行かない？」

結末 2

『カブキ』と千春の関係を描写したら、シーン終了。

エグゼク：ライバル

登場：他のキャストの登場は不可

解説

『エグゼク』のオープニングシーン。『エグゼク』と犬飼が出会った頃の回想である。

描写

キミが千春に入って間もない頃、同期にいた犬飼圭一。二人とも、慣れないクグツだったが、ある時は親友、ある時はライバルとして切磋琢磨していた仲だった。

セリフ

犬飼圭一

「私は犬飼圭一、君は？」

「『エグゼク』というのか。これから長い付き合いになるかもしれないな。お互い頑張ろう」

「仕事ばかりじゃ息が詰まる。私達はドロイドじゃないんだ。……どうだ。ちょっと一杯、な？」

「私たちも、そろそろエグゼクへの道が見えてきた頃だな。どちらが先になることができるか……負けないからな？」

結末

『エグゼク』と犬飼の交流を演出したら、シーンを終了する。

カブキ：放課後の災難

登場：＜社会：学校＞15

解説

『カブキ』と千春が学校から帰る途中、犬飼の《買収》が使用され、千春がロボタクに轢かれそうになる。カブキが神業で打ち消さない限り、千春は死亡する。千春が死亡した場合、このアクトは終了となる。

『カブキ』が千春を助けたら、車はそのまま逃げて行く。辺りは騒然となり、イヌがやってくる。

描写

退屈な授業も終わり、これからが学生の本分。キミと千春は、いつものように寄り道して帰る。ウエنزデイ・マーケットで店をひやかしながら、楽しくおしゃべりをして帰るのだが、今日は朝から千春の元気がないようだ。

セリフ

千春

「(話しかけられた)……えっ、あ……ごめん。

聞こえてなかったみたい」

「ごめんね、『カブキ』。今日は、ちょっと調子が悪いみたい」

「……なんだろう、あの車。こっちに向かってくる……？ きゃあっ！！(犬飼が《買収》を使用)」

結末

千春がイヌの事情聴取を受けているのを『カブキ』が見て、シーン終了。

放課後の災難

「親友」のシーンとは別の日である。

レイ

自分と似た境遇から、千春を
気にかけている。

『イヌ』と千春

情報項目にもあるが、千春に
はこれまで何度か無言電話や
脅迫メールが送られている。今
回のロボタクの件も、何か関係
があるのではないかと考えて
いるが、『イヌ』に迷惑をかけ
たくないため、このことについ
ては触れないようにしている。

『エグゼク』の部下

犬飼に敵意を持っているわ
けではないが、上司である『エ
グゼク』の昇進が自分に有利に
働くと考えた。

イヌ：すれ違いの始まり

登場：＜社会：警察＞10

解説 1

『イヌ』にレイから千春が事故に巻き込まれそ
うになったことを知らされるシーン。

描写 1

キミのポケットロンにコールが入る。仕事用の
回線、相手はレイだ。

セリフ

レイ

「『イヌ』さん。ついさっき、千春がロボタクに
轢かれそうになった。幸い千春に怪我はなかった
みたいけど」

「逃げたロボタクは今オレが探してる」

「千春は現場に駆けつけたイヌが事情を聞いた
あと家に帰したみたいだ」

結末 1

『イヌ』がレイと会話を終え、千春の様子を見
に行ったら、描写 2 へ。千春の様子を見に行かな
い場合は、描写 2 は飛ばしてシーンを終了する。

解説 2

『イヌ』と千春が会話するシーン。千春は交通
事故に遭いそうになったことについての話。

描写 2

急いでキミは自宅へと戻る。玄関を開け、千春
の部屋へ行くと、彼女は制服のままベッドに寝転
がっていた。

セリフ

千春

「(身体を起こす)あ、お父さん。お帰りなさい」

「(交通事故について聞いた)……うん、いきなり
向こうからロボタクが走ってきて……」

「ねえ、お父さん。……ううん、なんでもない」

「私、今日はちょっと調子が悪くて。少し横にな
るね、ごめんなさい」

結末 2

『イヌ』と千春の会話が終了したら、シーンを
終了する。

トーカー：休む暇はなし

登場：＜社会：メディア＞15

解説

CNNの千早夏芽からコールが入り、凶悪犯罪
の被害者とその遺族を取材するよう依頼が来る。

描写

NVAって街は、事件には事欠かない。忙し
く取材に飛び回り、やっと休憩が取れた今でも、
どこかで事件は起こっている。もっとも、だから
こそキミは仕事には困らないのだが。

キミのポケットロンはけたたましく鳴る。相手
は千早夏芽。社長自らのご指名だった。

セリフ

千早夏芽

「休憩中でしたか、『トーカー』さん。お願いし
たい取材があるのですが、よろしいですか」

「この街では2秒に1回を上回るペースで犯罪
が起こっています。そのせいで被害者と遺族は増
える一方です」

「今回は、事件そのものではなく、被害者及び遺
族達の取材をお願いします。」

「今回の取材は、協賛として遺族の会という協会
にご協力頂いています。取材の力になってくれる
でしょう」

「それから、最近発生している連続殺人事件、犯
罪者の身内ばかりが狙われているようです。こち
らも併せて取材したほうがいいかもしれません」

「取材費は3シルバ。後に報酬として3シルバほ
ど考えています」

結末

『トーカー』が依頼を受けたらシーン終了。

エグゼク：疑惑の尻尾

登場：＜社会：企業＞20

解説

『エグゼク』が、部下から犬飼に横領の疑惑が
あることを知らされるシーン。

描写

これで、今回の仕事は終わり。最後のチェック
を終え、キミはオフィスで一息ついたところだ。
キミのデスクに、部下がコーヒーを持ってやって
きた。珍しいことに、次の仕事は比較的楽なもの
で、しばらくは平和な日々が過ごせそうだった。

セリフ

部下

「お疲れ様です『エグゼク』さん。少々、お時間
ございますか。有益な情報を手に入れたもので」
『エグゼク』さんの同期に、犬飼圭一という方
がいたと思うのですが、今、彼には横領の噂が立
っています」

「弱みを握る、いや、うまくいけば追い落とせる
チャンスかもしれません。幸い、次のプロジェク
トは簡単そうですし、こちらは任せてください」

結末

『エグゼク』が犬飼を調査すると決めたら、シ
ーンは終了。

ひょうどうちはる
兵頭千春

スタイル

エキストラ
設定

「私は犯罪者の娘だから、お父さん
の下にいてはいけないの」

サイバーサイコである兵藤譲二の
娘。父が制裁された後、『イヌ』に保
護され、家族として育てられる。実
父の所業は知っており、常に引け目
を感じている。

リサーチフェイズ

クライマックスへの条件

イベント「あなたへ」が終了し、キャストが遺族の会本部へ移動したら、クライマックスフェイズへ移行する。

イベント

イヌ：いつもの捜査

条件：リサーチフェイズの最初のシーン

登場：＜社会：警察＞15

解説

『イヌ』が千早冴子から殺人事件の捜査を命じられるシーン。

描写

長年、機動捜査課なんて所にいると、殺人事件なんて言葉は嫌というほど聞く。今日もキミは隊長に事件の捜査を命じられているところだ。

セリフ

千早冴子

「おはよう、『イヌ』君」
「早速だけど、捜査よ」
「殺人事件よ。今回の被害者は、凶悪犯罪者の肉親ばかり。もしかしたら、この事件は復讐のつもり……なのかもね」
「凶悪犯罪者には、私たちも武力を持って対処しななければならないことが多いわ。結果として、被害者の遺族には犯人に会わせてあげる事ができない。……心の整理がつけられない人がいてもおかしくないわ」
「でも、こんなやり方は間違っている。あなたも、そう思うでしょう？」

結末

『イヌ』が調査に出たらシーンは終了。

トーキー：遺族の会とは

条件：『トーキー』が遺族の会に取材に行った

登場：＜社会：メディア＞15

解説

『トーキー』が、「遺族の会」副会長の咲耶に取材をするシーン。彼女は自分の経験を交えつつ、被害者の遺族のやるせなさや怒りを訴える。

描写

「遺族の会」本部は、グリーンエリアの割と目立たない事務所だった。キミが取材に来たことを伝えると、小綺麗な個室に案内された。

セリフ

咲耶寛美

「『トーキー』さん。申し訳ございませんが、会長の犬飼は多忙につき、取材に応じることができません。代わりに、私がお話を聞きます」
「この会の会員は、みな肉親を犯罪で亡くし、この会で近い境遇の者と支え合っています」
「警察は事件を解決してくれました。それはとても感謝しています。ですが、彼らは犯罪者を生か

して捕まえません。大抵の場合、遺族である私たちが犯人に会うことは無いが、死んでから会うことになるのです……遺族は怒りのやり場を無くし、心の整理がいつまでもつかないのです」

「凶悪になっていく犯罪に対抗するためには、やむを得ないことなのかもしれません。ですが、私には最初から犯人を生かして逮捕する気がないように思えます。私達は、そのことについて警察機関に抗議活動をしています」

「……結局、私たちの怒りは犯罪者に近い者に向いていきます。でもそれはある意味当然です。彼らには、犯人が犯罪に走る前に止めることもできたはず。それに、犯人が犯人たる土壌を作っていたはずですから」

「(息子について聞かれた)以前、私は息子をマフィアに誘拐され、身代金を要求されました。お金と愛する息子、いったいどうして天秤にかけられましょうか？私は要求された通りにしました。しかし、あの男は……」

「今回の取材で、私達のような者が少しでも減るようになってくれれば良いのですが」

結末

シーン終了前に、咲耶は＜交渉＞＋＜一期一会＞で判定を行い、『トーキー』のコネを取得しようとする。取材を終えたら、シーン終了。

カブキ：家を出てきた少女

条件：イベント「遺族の会とは」の後

登場：＜社会：ストリート＞10

解説

千春が家を出し、『カブキ』の家に転がり込むシーン。彼女は『イヌ』に迷惑をかけないように家出したものの、途方にくれている。基本的に、『カブキ』が彼女を家に置いてくれるという提案をしたならば、彼女はそれを受け入れる。そうでなかった場合、彼女はどこかに行ってしまう。

描写

今日は休日。学生にとっては貴重な時間だ。この前、千春が車に轢かれそうになって以来、彼女は元気がない。元気付けてあげたくて、遊びに行こうとコールしてみたものの、一向に出てくれる気配はなかった。仕方なく、キミは一人で街を歩いていた。

一通りウィンドショッピングを済ませ、ふと喫茶店を見ると、そこには千春がいた。一人で、うつむきながらコーヒーのカップを両手で持っている彼女。その横には、大きなバッグが置かれていた。まるで……家出少女だ。

セリフ

千春

「(声をかけた)……あ、え……『カブキ』？」
「(何をしているのか聞かれた)ん……え、えっと、その、……お買い物、かな」
「(バッグを聞かれた)こ、これはその、えっと、ちょっと買いすぎちゃって」

咲耶の《一期一会》

成功した場合、スートはクラブで取得する。『トーキー』は咲耶に対し、同調や好感、もしくは被害者の遺族に対する同情などの感情を持ったことになる。

千春の処遇

『カブキ』が男性の場合や、『カブキ』の家に特別な事情がある場合、年頃の女性である千春を家に置くのは躊躇うだろう。その場合は、『カブキ』のコネに頼ることにしてもよい。その際は、＜コネ＞で目標値15の判定を行うこと。

千春と『カブキ』

基本的に、千春は『カブキ』と同行せず、シーン「家を出てきた少女」以降は、『カブキ』と一緒に登場しない。

遺族の会の取材

基本的に、『トーキー』の取材に応じてセリフを参考にすること。情報項目にて説明されている部分が多いので、不要な部分は端折ってしまっても構わない。

《暴露》を打ち消す

PLが《暴露》を打ち消すと宣言した場合、RLはそれを打ち消すと宣言すること。その結果、PLが打ち消しを取りやめるならば、それを許可すること。

PLが打ち消しを使用した場合、咲耶が《ファイト!》を犬飼の《買収》に使用し、これを打ち消す。

それでも《ブリーズ!》が打ち消された場合、報道は失敗し、千春への社会戦ダメージは与えられないが、彼らが千春の命を狙うことに変わりはない。

「(嘘だと言われた)……ごめん。本当は、家出してきちゃったの」

「ごめん、何も聞かないで……お願い」

「(泊まる場所を聞かれた)どこにもあてがないし、公園……かな」

結末

『カブキ』が彼女を家に置く提案をするか、彼女と別れたらシーンは終了。

エグゼク：築き上げたもの

条件：『エグゼク』が犬飼を調査した

登場：全員登場

解説

社会戦シーンである。『エグゼク』に対し社会戦を行うこと。バックトラップにより正体を明かされても構わないが、手は抜かないこと。

描写

キミを取り巻く環境に、違和感。信頼している部下が、キミを監視している……そんな感覚だ。

セリフ

犬飼圭一

「(正体を知られた)少々、悔っていたようだ。だが、貴様に私の計画の邪魔はさせん。……やっとな、ここまで来たのだ」

結末

犬飼がバックトラップにより正体を明かされるか、『エグゼク』に社会戦ダメージが適用されたら、シーンは終了。

トーキー：仕組まれた報道

条件：イベント「家を出てきた少女」の次の『トーキー』のシーン

登場：キャストの登場判定は不可

解説

咲耶が《ブリーズ!》によって『トーキー』の《暴露》を使用させるシーン。これにより、兵頭譲二のネタを報道させること。その内容は、一部実名が混ぜられており、千春が兵頭譲二の娘であることが報道されてしまう。これにより、千春に「21：抹殺」の社会戦ダメージが適用される。

描写

キミが取材のネタをまとめていると、コールが入った。咲耶寛美からだ。

セリフ

咲耶寛美

「本日はどうも。取材、進んでいますか？」

「実は、先ほど会長に取材の事をお話いたしましたら、是非ともこの映像を報道に役立てて欲しいとのことで(データを送る)」

「その映像は、会長の過去の傷跡です。……彼が、この遺族の会を設立したきっかけでもあります。……この映像は、相当の覚悟の上でお渡ししています」

「できれば会長の意思を汲んで、あまり編集せず、ありのままに報道に役立てて頂きたいのですが……(《ブリーズ!》を使用)」

結末

『トーキー』が《暴露》を使用すると、兵頭譲二の残虐な犯行映像が流れ、彼の娘である千春が『イヌ』に保護されていることが報道される。世論では、犯罪者の家族に対する風当たりが極端に冷たくなる。また、警察機関へは『イヌ』に対する抗議が殺到するようになる。

なお、これらの効果は全て《ブリーズ!》による効果であり、咲耶が『トーキー』に心理的誘導を行い偏った報道を行ったことと、渡された映像にサブリミナル効果のある映像が混ぜられていたこととする。『トーキー』は、報道後の事態を見てそれがわかったことをプレイヤーに伝えること。《暴露》の効果を演出したら、シーン終了。

エグゼク：背中に銃を

条件：イベント「築き上げたもの」の後、適当な『エグゼク』のシーン

登場：<社会：企業>15

解説

『エグゼク』が萩浦に脅迫されるシーン。萩浦は、犬飼が今回の計画を遂行するまで『エグゼク』が黙って見ているように伝える。

萩浦は用件を伝えたらシーンを退場する。もしPC達が退場を妨害しようとしたならば、《不可知》を使用する。

描写

夜、キミが今日の調査結果をまとめていると、服ごしの背中に冷たいものが押し付けられた。……やられた、恐らくは犬飼の刺客だ。

セリフ

萩浦浩二

「……あんたが、『エグゼク』さんか」

「なに、殺しはしないさ。あんたがおとなしくしている限りは、な」

「ある人から伝言を預かっている。依頼人が誰かは、もうわかってるんだろ？」

「この件からは手を引け……なんて、ありきたりな事は言わん。後3日、このまま黙って見ていればそれでいい。……だとさ。わかったかい？」

「(抵抗した)この状況で抵抗するとはな。俺も、事を大きくしたいわけじゃない。今日はあんたの勇気に免じて帰ってやるさ」

結末

萩浦が闇に消えて退場し、シーンは終了。

イヌ：あなたへ

条件：イベント「仕組まれた報道」が発生した後、かつ『イヌ』と『カブキ』が千春に会いに行った

登場：場所による

解説

『イヌ』と『カブキ』が千春からのメッセージを見るシーン。千春の姿は、すでに『カブキ』の家には無く、DAKに千春からのメッセージ映像が残されている。

もし、『イヌ』と『カブキ』が千春に会いに行く前に遺族の会に行こうとした場合は、千春から『カブキ』に対してこのメッセージがメールで送信されてくることにしてもよい。

描写

『カブキ』の家に着いたが、そこに千春の姿はなく、DAKが新たに記憶された映像があると『カブキ』に伝える声だけが響いていた。映像を再生すると、千春が一人、思いつめた顔で映っていた。

セリフ

千春

「放送……見たでしょ？私、犯罪者の娘だったの」

「このままだと、私だけじゃなくて『カブキ』も、お父さんも巻き込まれちゃう。……いえ、もう巻き込まれてしまったかもしれない。ごめんなさい」

「だから……さようなら。それから、ありがとう。お父さんと『カブキ』のおかげで、私は普通の女の子として暮らしていけました。『カブキ』にはなんでもない日常だったかもしれないけど……私、すごく楽しかった」

「『カブキ』、お父さんに伝えておいて欲しい事があるの。「短い間だったけど、お父さんの娘になれて本当によかった」って」

「最後に、我儘かもしれないけど、一つだけお願いしていいかな？」

「私を、犯罪者の娘『兵頭千春』じゃなく、お父さんの娘『(イヌの苗字)千春』として覚えていてくれたら……嬉しいな」

結末

『イヌ』と『カブキ』が今後の方針を決めたら、シーン終了。

犬飼の資金源

神業で隠蔽されている項目は、確たる証拠として手に入れることができる。この証拠がなければ、『エグゼク』が犬飼を問い詰めることはできない。

情報

：犬飼圭一

<社会：企業><コネ：犬飼圭一>

- 10 千早重工のエグゼク。数多くのプロジェクトでマネジメントをこなしている。『エグゼク』というエグゼクと同期。
- 13 数年前に、娘を犯罪の被害で亡くしている。
- 15 娘を亡くした年に「遺族の会」を結成。会長と活動し、自ら多くの資金を寄付している。

：遺族の会の資金

<社会：企業>

- 13 基本的に会員の出資で賄っている。
- 18 犬飼の出資が必要以上に多く、彼の経済状況から見ても多すぎる額が出資されている。

：犬飼の資金源

<社会：企業、ストリート>

- 18 犬飼の口座に、定期的に多額のキャッシュが振り込まれている。
- 神 犬飼は千早重工の経費を水増しし、架空の会社へと支払うことでマネーロンダリングを行い、「遺族の会」の資金へ当てている。証拠の明細を手に入れることができる。

：遺族の会

<社会：警察、メディア><コネ：犬飼圭一>

- 10 凶悪犯罪に巻き込まれた被害者の遺族が結成した団体。代表は犬飼圭一、副代表は咲耶寛美。
- 13 活動内容は、被害者の遺族たちの会合による相互扶助、情報交換、警察機関への抗議など。

：警察機関への抗議

<社会：企業、警察、メディア>

<コネ：犬飼圭一>

- 15 凶悪犯罪者は生きて逮捕されることが少ないため、犯罪被害者の遺族は犯人との面会すら不可能なケースが非常に多い。遺族と犯人の面会が出来るようにするべきだ、という内容の抗議のようだ。

：犬飼の娘

<社会：企業、警察><コネ：犬飼圭一>

- 13 名前は犬飼瞳。事件当時は9歳だった。
- 18 あるサイバーサイコに被害され、その光景を撮影したデータがウェブ上にバラ撒かれた。
- 21 サイバーサイコの名前は、兵頭譲二である。

：咲耶寛美

<社会：メディア、社交界>

- 10 「遺族の会」副会長。30代の女性。「遺族の会」では、主にメンタルケアを担当。
- 13 元TFの幹部だったが、数年前に脱退し、「遺族の会」で副会長を務めるようになった。
- 18 数年前、営利誘拐で息子をレッガーに誘拐され、息子は帰らぬ人となった。

：咲耶の息子の誘拐事件

<社会：ストリート、警察>

- 15 カーライル・シンジケートのマフィア達が営利目的で誘拐した。咲耶は身代金を支払ったが、息子は殺害された。最終的に首謀者はブラックハウンドによって射殺。
- 21 2年前、首謀者の所属していたファミリーが何者かによって壊滅させられている。壊滅させた者の詳細は不明。

：連続殺人事件について

<社会：警察、ストリート><コネ：千早冴子>

- 13 犯罪者の肉親を狙った殺人、殺人未遂事件が多発している。
- 15 手口は陰湿かつ狡猾なものが多く、脅迫などの精神的苦痛や、醜聞などによる社会的苦痛を与え、最終的に殺害するといった方式が多く、憎悪が見て取れる。

：被害者への脅迫

<社会：警察、企業>

- 13 直接的な罵詈雑言から、無言電話などの間接的な嫌がらせまで、徹底的に精神的苦痛を与える手段を取っている。
- 15 脅迫状の一部を入手。「犯罪者の家族は、犯罪者も同然」「貴様も被害にあった者と同じ苦痛の中で死んでいくのだ」といった内容が記述されている。
- 18 千春という女性に対して、大量の脅迫メールの送信や無言電話の形跡が見られる。

：逃げたヴィークル

<社会：ストリート、警察><コネ：レイ>

<知覚> (『カブキ』のみ判定可能、達成値+5)

- 15 車はロボタクで、乗客はいなかった。スリッパ事故のように見せかけていたが、明らかに千春を轢く意思が見て取れた。
- 18 脳で外部から操作されていた。

：千春

<社会：警察、ウェブ><コネ：千春>

- 10 『イヌ』と住んでいる学生。『カブキ』と仲がよい。
- 13 ロボタクによる交通事故に巻き込まれそうになった。
- 15 数日前から、脅迫および無言電話の被害に会っている。
- 18 サイバーサイコであった兵頭譲二の娘である。父親が『イヌ』に制裁された後、『イヌ』によって保護された。

：兵頭譲二

<社会：警察>

- 15 数年前、多くの犠牲者を出した殺人事件で『イヌ』が制裁したサイバーサイコ。

：萩浦浩二

<社会：ストリート、ウェブ、警察>

15 フリーランスの電腦凶手で、電腦戦から肉
体戦闘まで幅広くこなす実力者。

16 ここ最近はある人物と長期契約を結んで
いるらしい。

条件：イベント「背中に銃を」の後

15 『エグゼク』のいた場所を目撃されている。

：ヴィークルを操作した犯人

<電腦><社会：ストリート、ウェブ>

18 萩浦浩二という電腦凶手だ。

：『エグゼク』を脅迫した男

<電腦><社会：ストリート、ウェブ>

18 萩浦浩二という電腦凶手だ。

：被害者を脅迫した犯人

神 萩原浩二という男とその部下達だ。(の情
報と同じ神業によって隠蔽されている)

：萩浦の雇い主

<社会：ストリート、企業>

神 犬飼圭一が雇い主だ。彼が主催する組織のウ
ェットワークを担当。彼とその部下は今まで
の連続殺人事件の実行犯である。

：千春の居場所

条件：イベント「あなたへ」の後

<社会：ストリート、企業、警察>

<コネ：千春、犬飼圭一>

18 「遺族の会」本部へと向かって行った。

戦闘配置

犬飼と咲耶は同一エンゲ
ージでキャストからは遠距離の
位置、萩浦は中距離、トループ
は近距離に配置されている。

クライマックスの千春

『イヌ』のことは、「お父さ
ん」ではなく『イヌさん』
と呼ぶ。自分が『イヌ』の娘で
あってはいけないと考えてい
るからだ。

クライマックスフェイズ

復讐の時

条件：キャストが千春を追って遺族の会へ来た

登場：キャストは全員不可

解説 1

クライマックス前のシーン。千春は遺族の会に
一人で行き、犬飼に自分以外の人を巻き込まない
ように懇願する。

描写 1

薄暗い部屋に一人、少女が立ち尽くしている。
彼女の前には巨大なモニターが淡々と映像を
写している。それは、彼女の実の父、兵頭譲二の
所業を記録していた映像だ。彼女は、その見るも
無残な映像を、目をそらさず、歯を食いしばって
見続けていた。

映像が終わり、部屋が明るくなる。彼女の目の
前にあったドアが開き、数人の男女が現れた。

セリフ

犬飼圭一

「ようこそ、遺族の会本部の地下特設会場へ」
「映像は楽しんで頂けたかな？ キミのお父上が
写った懐かしい映像だっただろう」

千春

「……実の父の罪は知っています」
「だから、私はここに来ました。悪いのは全部私。
数え切れない程の人達を悲しませた人の娘が、幸
せに生きていいはずが無いんです」
「私、犬飼さんに謝りに来ました。父の分も、私
の分も……」
「だから、……だから、関係ない人達を巻き込む
のはもうやめて下さい。お願いします」

結末 1

上記の会話が終了したら、描写 2 へ。

解説 2

『イヌ』と『カブキ』は自動登場。他は、登場
を望んだキャストは自由に登場可能。なお、遺族
の会本部はグリーンエリアにあるため、携帯判定
を忘れないこと。セキュリティレートは 1 4。

犬飼達とキャストが対決するシーン。カット進
行に入る前に、カゲトループが 2 1 人登場する。

描写 2

犬飼達とは反対側のドアが開け放たれ、『イヌ』
達が入ってくる。犬飼は『イヌ』達を見ると、明
らかな嫌悪を示した。

セリフ

犬飼圭一

「関係のない人達とは……彼らの事かね？」
「関係が無いわけが無いだろう。そこのイヌは、
犯罪者の娘であるキミを今までのうのうと生か
して置いた人物だ」
「(『カブキ』を睨み) そこの学生も、キミと親し
くしていたようじゃないか」
「(『エグゼク』に) 今は忙しいと伝えてあったは
ずだ。手荒なことはしたくなかったが、始末させ
てもらおう(トループが登場)」
「(倒された) 貴様らには、永遠に理解できまい」

咲耶寛美

「千春ちゃん、あきらめなさい。そもそも、あな
たが今まで普通に生きてきたこと自体が罪なの」
「(『トーキー』に) とてもよい報道でしたわ。あ
なたはそちらの方とは違う。こちらに付きません
か？取材のネタなら、まだたくさんありますわ」
「(断った) ……そう、残念です」
「(倒された) 坊や、今そっちへ行くら」

萩浦浩二

「あんたらに恨みはないが、こっちは仕事でな」
「(『エグゼク』に) ちゃんと忠告したつもりだっ
たんだがな。あんた、エグゼクのくせに物分り悪
いな」

「(倒された) ちっ、俺の腕もなまったもんだ」

結末 2

ゲストが全員倒されたら、エンディングへ。

いぬかいけいいち
犬飼圭一

スタイル

エグゼク=エグゼク=エグゼク

能力値

理性 6/15 感情 3/9
生命 3/9 外界 9/15

技能

交渉 4
社会：N V A 4
社会：企業 4
社会：警察 4
社会：テクノロジー 4
圧力 3
企業の一撃 4
産業スパイ 2
企業の盾 4

防具

・フォーマリティ 隠：(14) 電：18
防(殴/刺/斬/爆)：2/0/1/2
サイバーウェア
・マインドブラスト 隠：15 電：21
精神ダメージ+5
・マインドコート 隠：15 電：15
常に精神ダメージ2点軽減
・ガルーダ 隠：20 電：
外界以外の能力値+3
その他
・救命府 隠：20 電：
肉体ダメージ打消し。使い捨て。
・トラウマパッチ 隠：15 電：-
精神ダメージ打消し。使い捨て。

設定

「遺族に復讐の機会が与えられない……どれほど残酷なことか、君にはわかるかね」

千早重工のエグゼクであり、「遺族の会」会長。犯罪者の家族を犯罪者と同様に憎んでいる。

行動方針

推奨プロット札：
社会戦では、<社会>+<企業の一撃>で差分値つきの攻撃を行う。適宜<圧力>と<産業スパイ>で達成値を上げる。
クライマックスでは、<交渉>による精神戦を行う。

さくやひろみ
咲耶真美

スタイル

ミストレス、カリスマ、マネキン

能力値

理性 3/10 感情 9/15
生命 3/10 外界 6/13

技能

交渉 4
自我 4
盾の乙女 4
母性本能 4
ゲシュタルト崩壊 4
信念 4
一期一会 4
誘惑 3

防具

・フェイヴァリット 隠：(18) 電：16
防(殴/刺/斬/爆)：0/0/0/1
精神ダメージ2点軽減
サイバーウェア
・エンジェルヴォイス 隠：20 電：15
常に<交渉>+1
その他
・カウンタースピリット 隠：20 電：15
精神ダメージを自分に与えたキャラクターに[バックファイア]。使い捨て。

設定

「犯罪の犠牲者は被害者だけではなく、遺族もまた被害者なのです」
「遺族の会」副会長。過去の事件から犬飼に同調し、協力する。

行動方針

推奨プロット札：
<交渉>+<ゲシュタルト崩壊>+<誘惑>で精神戦を行う。達成値+4(感情を除く)ダメージに差分値を加える。他人に対する攻撃を<交渉>+<母性本能>でリアクションしてもよい。
状況を見て、萩浦に<盾の乙女>を使用する。

はぎうらこうじ
萩浦浩二

スタイル

カゲ、カブトワリ、ニューロ

能力値

理性 8/14 感情 2/14
生命 4/8 外界 7/13

技能

運動 4
電脳 4
射撃 6
空蝉 4
死点撃ち 4
黒羽の矢 4
必殺の矢 4
ドミネート 4
防壁構築 2
フリップ・フロップ 4

武器

・タクシードライブ-x2 隠：16 電：20
攻：殴+4 受：射：近

防具

・装甲
防(殴/刺/斬/爆)：6/4/5/7

サイバーウェア

・剣 隠：20 電：18
義体。常にAR3。

・59 隠：20 電：21
<電脳>+2。ソフト5つ。

その他

・スピード 隠：電：12
<電脳>+1

設定

「いい銃だな、少し借りるぜ」
犬飼に雇われた電脳凶手。電脳で義体を操ることで運動能力を上げている。二丁拳銃を扱う。

行動方針

推奨プロット札：
ARは常に3。
<射撃>+<電脳>+<死点撃ち>+<黒羽の矢>+<必殺の矢>で2回攻撃。達成値+3、ダメージに差分値を加える。<ドミネート>を組み合わせ、キャストの銃で攻撃してもよい。リアクションは<運動>+<電脳>+<空蝉>で行う。達成値+3、成功すれば追加行動が行える。

ゲスト神業の使用指針

犬飼圭一

買収

『カブキ』のオープニング「放課後の災難」で、千春を「完全死亡」させるために使用する

買収

情報「犬飼の資金源」の情報隠蔽に使用済み

買収

情報「被害者を脅迫した犯人」「萩浦の雇い主」の情報隠蔽に使用済み

咲耶真美

ファイト!

自由に使用可能。イベント「仕組まれた報道」で使用する可能性がある

神の御言葉

自由に使用可能。主にクライマックスでキャストを「精神崩壊」させる

ブリーズ!

イベント「仕組まれた報道」で、『トーキー』に《暴露》を使用させて、千春に「抹殺」を与える

ゲスト3

不可知

自由に使用可能。イベント「背中に銃を」で退場に使用する可能性がある

とどめの一撃

自由に使用可能。主にクライマックスでキャストを「完全死亡」させる

電脳神

自由に使用可能。

エンディングフェイズ

解かれた呪縛

登場：キャストは自由に登場可能

解説

クライマックス直後のシーン。千春が事件の解決を認識する。『イヌ』と『カブキ』は基本的に自動登場とする。

描写

悪夢は全て終わった。千春は、『イヌ』に駆け寄った。

セリフ

千春

「お父さん……いえ、『イヌ』さん……」
「(全て終わったと伝えた)……お父、さん(『イヌ』に抱きついて泣く)」

結末

キャスト達と今後を決めたらシーンは終了。各自のエンディングシーンへ。

エグゼク：勝利の味

解説

『エグゼク』のエンディングシーン。犬飼の不正を暴いたことで、『エグゼク』の昇進が決まる。

描写

キミは事の顛末を社長に報告した。社長は犬飼の不正に薄々気づいていたらしく、報告の後すぐにキミの昇進が決定した。

セリフ

部下

「おめでとうございます、『エグゼク』さん」
「次の仕事の準備は私がしておきました」

結末

『エグゼク』は次の仕事に取り掛かったら、シーン終了。

トーキー：ケリをつけるということ

解説

『トーキー』のエンディングシーン。咲耶の《ブリーズ》による報道を、『暴露』で訂正する。この効果により、千春の「抹殺」は消去される。

描写

偏った報道をしてしまったキミだが、今ならばそれを覆せる。それだけの結論を、キミは得た。放送が終わると、千早夏芽からコールが来た。

セリフ

千早夏芽

「お疲れ様です、『トーキー』さん」
「番組は大反響。さっきからさまざまな意見のコールが止まりません」
「以前の放送の時はどうなるかと思いましたけど、逆にそれが良かったのかもしれないね」

結末

報道の結果を描写し、シーン終了。

カブキ：取り戻した日常

解説

『カブキ』のエンディングシーン。千春との日常が戻ってくる。

描写

あれから数日。キミと千春は日常を取り戻した。千春が学校に復帰した日の放課後、キミたち二人は一緒に帰る。今まででもそうであったように。

セリフ

千春

「本当、夢みたい。もう無くなったと思った日常が帰ってくるなんて」
「『カブキ』、……ありがと。これからずっと、友達でいてね」

結末

日常を描写し、シーンは終了。

イヌ：固い絆

解説

『イヌ』のエンディングシーン。千春は『イヌ』の元で幸せになりたいと願う。

描写

千春が帰ってきた。以前のような笑顔を取り戻した。……いや、以前より、もっと明るい笑顔だった。

セリフ

千春

「ただいま、お父さん」
「……迷惑かけてごめんなさい。でも、助けてくれてありがと」
「私、やっぱり、ずっとお父さんの娘でいたい……幸せになりたい。……だめ、かな？」

結末

『イヌ』と千春がお互いの絆を確かめたら、シーンは終了。

エンディング

あくまで一例である。P L 側から提示されたエンディングがあるならば、基本的にそちらを採用しよう。

『トーキー』の《暴露》

恐らく、千春の社会戦ダメージを打ち消すためにエンディングで使用されるだろう。報道の内容としての目安は、以前《ブリーズ！》によって行ってしまった報道をどう覆すかによる。以前の《暴露》と併せて前後編としてバランスを取るのもよいし、行き過ぎた報道を真実と共に詫びてもよい。大事なのは、『トーキー』として、自分が納得できるような報道が行えたかである。

カゲトループ (5 LV)

スタイル

カゲ

能力値

理性 8 / 10 感情 5 / 10
生命 7 / 9 外界 7 / 8

技能

運動 3
白兵 3
完全奇襲 3

武器

・メタルフォーム 隠：18 電：15
攻：刺+1 受：1 射：至近

防具

・ヘヴィアームズ 隠：18 電：15
防(殴/刺/斬/爆)：1 / 1 / 1 / 1
白兵ダメージ+2

その他

・ソルジャーブルー 隠：15 電：18
物理攻撃ダメージ+3

行動方針

推奨プロット札：
＜白兵＞+＜完全奇襲＞で攻撃。リアクション不可、ダメージ+5、さらに差分値を加える。プロットを1枚破棄すること。